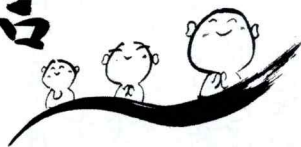


新潟県 県仏通信



第33号

新潟県仏教会会報

令和7年9月15日発行

発行人 会長 西脇真成

事務局 〒943-0153

上越市鴨島1-8-5 願宗寺

TEL: 025-524-6496



令和7年4月1日付けで新潟県仏教会会長に就任いたしました、西脇真成（高田仏教会所属）です。浄土真宗本願寺派願宗寺住職を務めております。宜しくお願ひいたします。

歴史ある新潟県仏教会の会長を務めさせていただくことは大変身の引き締まる思いと共に先人が築かれた大いなる実績に学びより有意義な新潟県仏教会にしていきたいと思ひます。

就任後最初の大きな事務仕事は会員に県仏通信の作成及び配布ですが、引き次をして驚いたことは会員が1900余名でそのうち各地域の仏教会に所属していない会員は約900名にも上るといふ事でした。

これ程巨大な組織だとは思わなかったと同時に、事

務作業の多さに戸惑いを感じました。このことが県仏の独自の事業が開催ができない一つの要因では無いかなと思つた次第です。

県仏通信の郵送準備・コストの新潟県仏教会予算に占める割合は異常ともいえるものです。資源環境保全の配慮からも紙媒体での情報伝達ではできるだけ避けデジタル化を進めるべきではないでしょうか。

また全日本仏教会通信は、地域仏教会で会員数の会費を払っているにもかかわらず会員数の十分の一しか配布されていません。今回ホームページ上にアップしましたのでご覧ください。

Webでの配信はリアルタイムで情報をアップできる利点があります。また会員が他の会員に知っていたきたいことなども事務局にデータを送っていただければすぐにホームページに反映できます。

会員の皆様も是非ホームページを活用し有用な内容の告知をおこなってください。

また、皆様方の布教活動

の近況伝える場また各々の考えを伝える場になつてほしいと思つております。

私の所属する本願寺派は平成24年宗勢調査がおこなわれ、それをもとに国学院がデータを分析した結果30年後10000か寺の内3割が廃寺となるとの分析結果が出ました。それは年収300万以下の寺院とのこととです。

我が地域宗派過疎地では15年ほどで5割は廃寺になる可能性もあります。宗教団体・宗教者は今何をするべきなのが重要です。時代と共にお寺・僧侶の役割が変わつてきます。

近年終活を商売にしている業種が沢山あります。過去に葬式仏教という言葉で僧侶が萎縮してしまいかかわりを避けた結果終活は多くの業種の参入を許す結果となりました。

本堂庫裏は非課税です。境内墓地も非課税でなぜそれを有効に活用しないのでしょうか。有効活用により寺院の存続に大いに役立つはずです！多くの所属信者

は経済的負担を軽減できます。

個人の見解ではありますが、今変わらうとしても時すでに遅しの感があります。今の時代ほとんどの人は法話を聞く耳は持たないしその機会すらありません。

しかし大切な人の死をむかへ悲しみに暮れる人こそ寄り添えることができるのが私たち僧侶の役割だと思つています。それが葬儀の場（逆縁）であり、故人を繰り返し思う場所が法事なのです（悲嘆の共有）。

今の時代寺院存在が無意味と思う人が少なからずおりそのような環境だからこそ批判を気にせず今の僧侶の役割を行うべきです。

最後に会の運営方法を提案させていただきます。

まずは議案作成は会長・副会長の執行部が協議の上決めるべきと思ひます。

また理事会の採決も出席者の三分の二ではなく、理事数の過半数が賛成で議案の採決が一般的です。前回の理事会は新年度予算案のみでしたので出席者11名の内、決定権を持つ理事は6